



本資料は、(財)日本規格協会によって仮訳したものです。本資料の無断での引用・転載を禁じます。

## 第8回 ISO/TMB/WG SR 総会の決議

2010年5月17日～21日、デンマーク、コペンハーゲン

注：決議は WG の今後の作業又は主要な決定に影響を及ぼす決定事項を反映するものである。その他のすべての決定事項は議事録に反映される。

### 決議 1

ISO/TMB/WG SR は、総会で提出された文書 WG SR N191 を承認し、編集のために編集委員会に送付し、その後、2010年6月30日までに ISO/CS に提出し、投票のために、FDIS として登録することに合意する。

### 決議 2

ISO/TMB/WG SR は、次の財政支援者に対して、ISO 26000 の開発過程で開発途上国のステークホルダーの参加を促進するための ISO DEVCO に対する貢献に感謝の意を表する。

- －スウェーデン国際開発協力機関 (SIDA) (2005 年から 2010 年)
- －ノルウェー開発協力機関 (NORAD) (2006 年及び 2007 年)
- －スイス連邦経済省経済事務局 (SECO) (2006 年及び 2007 年)
- －フィンランド政府 (2006 年から 2010 年)

### 決議 3

ISO/TMB/WG SR は、次の財政支援者に対して、ISO 26000 の開発過程でステークホルダーの参加を促進するための ISO SR 信託基金への寄付に感謝の意を表する。

- －Suzano Pulp and Paper S.A (2006 年)
- －Novo Nordisk A/S (2006 年)
- －Petrobras (2007 年)
- －ソニー株式会社 (2007 年から 2010 年)
- －オランダ政府 (2007 年及び 2008 年)
- －カナダ標準審議会 (2008 年)

### 決議 4

ISO/TMB/WG SR は、現在及び将来の財政支援者並びにパートナーに対して、ISO 26000 の発行後、その認知度を高めるために ISO DEVCO を支援するように求めると共に、国レベルでの利用を奨励する。



2010年5月21日

**ISO/TMB/WG SR**

社会的責任

**決議 5**

ISO/TMB/WG SR は、WG SR 議長に対して、CAG と協議の上、TG 2 によって策定中のコミュニケーション・プランを完成し、承認することを許可する。

**決議 6**

ISO/TMB/WG SR は、TG 2 によって開発されたすべてのコミュニケーション・ツールを ISO 中央事務局に引き渡すことを決定する。

**決議 7**

ISO/TMB/WG SR は、ISO 理事会に対して、ISO/TMB/WG SR プロセス中に作成され、現在、<http://www.iso.org/wgsr> の ISO SR 作業領域にアップロードされているすべての作業文書を ISO ウェブサイトのコレクションとして保持し、無期限で公衆が完全に利用できるようにすることを要請する。

**決議 8**

ISO/TMB/WG SR は、ISO/TMB に対して、ISO 26000 発行後の活動のために、勧告されたマルチ・ステークホルダーの構成及び調和に基づいて、国家レベルでの専門家委員会の設置を NSB に奨励することを要請する。

**決議 9**

ISO/TMB/WG SR は、ISO/TMB に対して、文書 WG SR N192 rev.1 で説明されている委託条項案と構成に従って、ISO 26000 発行後の組織を設立することを要請する。

**決議 10**

ISO/TMB/WG SR は、WG SR の現在の各ステークホルダーグループ（消費者、政府、業界、労働者、NGO、SSRO）及び言語タスクフォースに対して、自己管理組織を設置し、ISO 26000 の第 1 回改訂まで機能させることを奨励する。これは、発行後組織への貢献をより効果的にするために、提案された発行後組織（決議 9）の代表者と両方向で通信できるようにすること、及び既存のステークホルダーグループのネットワークを維持し、強化することを目的とする。

**決議 11**

ISO/TMB/WG SR は、この第8回コペンハーゲンISO/TMB/WG SR総会の暖かいもてなしとすばらしい手配に対して、デンマーク規格協会及びデンマーク経済産業省に感謝する。



2010年5月21日

ISO/TMB/WG SR N 193

ページ 3/3

## ISO/TMB/WG SR

社会的責任

### 決議 12

ISO/TMB/WG SR は、ISO 26000 の開発過程全般にわたる努力、創造力及び献身に対して、次の方々に感謝する。

- －WG SR リーダーシップ
- －議長諮問グループ
- －統合原案タスクフォース
- －編集委員会
- －言語タスクフォース
- －分科会コンビナー及び事務局
- －WG SR の専門家及びオブザーバー
- －WG SR の NSB テクニカルオフィサー
- －6つのステークホルダーグループ
- －ISO 中央事務局の職員
- －各国の ISO/TMB/WG SR 国内委員会